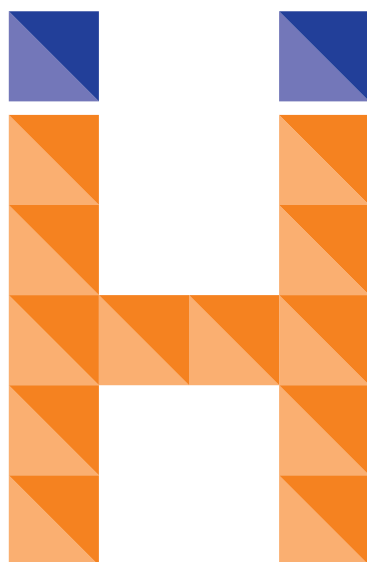
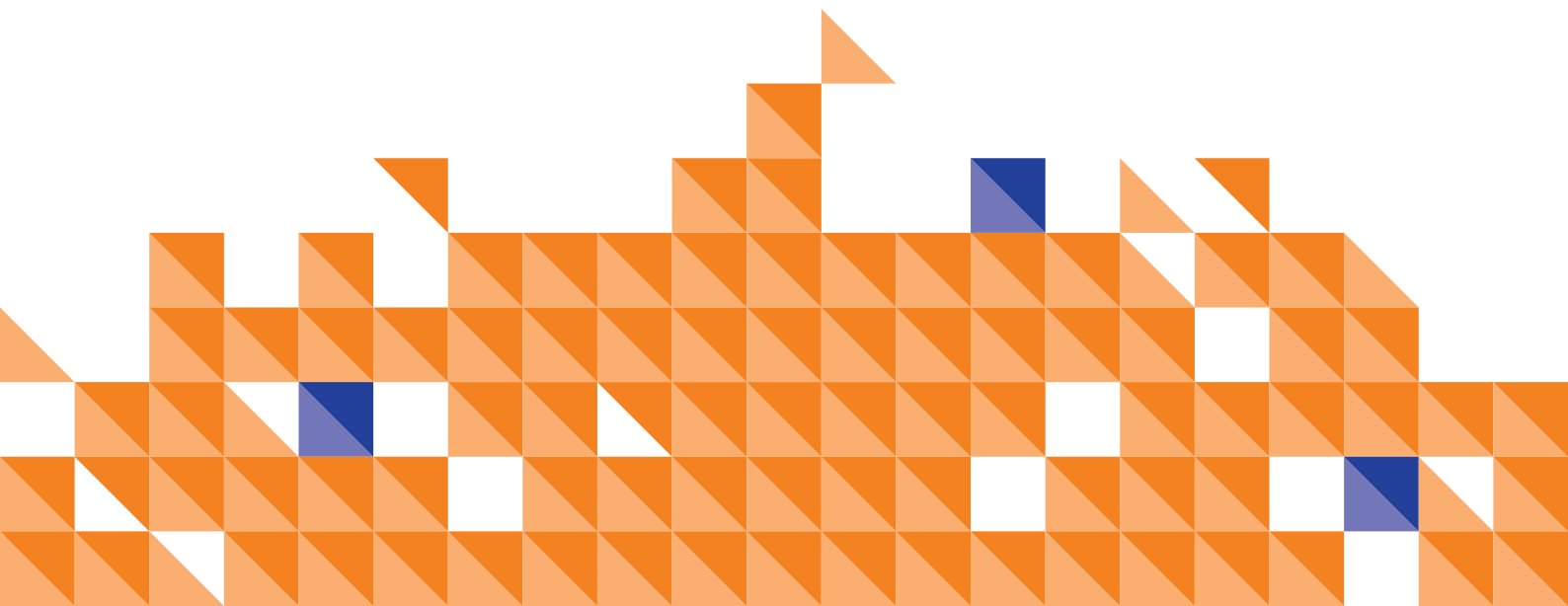


法政大学大学院経営学研究科  
法政ビジネススクール2027



# HOSEI BUSINESS SCHOOL

Graduate School of Business Administration



# 不確実性の中で方向を見出す —理論と実践をつなぐ学びの場



法政大学大学院  
経営学研究科

研究科長  
坂上学

法政大学大学院経営学研究科(法政ビジネススクール)は、1992年の設立以来、これまでに1,000名以上のMBA取得者を輩出してきました。修了生は、企業の第一線で活躍するのみならず、行政、医療、教育機関など、さまざまな分野でその力を発揮しています。

本研究科では、マネジメントを統合的に学ぶための教育環境を提供しています。社会人を対象とする夜間の修士課程は、高度職業人の養成を目的として設立され、長年にわたり教員と院生との対話を重ねながら、効果的な教育方法を探究してきました。そうした積み重ねにより、学びを深めるための実践的な教育の知見が培われています。修了生の中には大学教員として活躍する者も多く、夜間課程でありながら高い教育水準を維持していることを示しています。

また、全日制の昼間修士課程では、設立当初から研究者養成を重視し、経営学の専門知識と学術的思考力を養う場として発展してきました。近年は多くの留学生を受け入れており、多様なバックグラウンドを持つ院生が集う環境の中で、質の高い教育を提供しています。

本研究科には、学部で経営学以外を専攻していた院生も多く在籍しています。教員の幅広い専門領域と学部教育での豊富な経験を活かした少人数制の授業により、理論や概念を基礎から丁寧に学ぶことができます。さらに、企業の第一線で活躍する実務家を招いたワークショップでは、現場の視点に触れながら活発な議論が行われており、理論と実践を結びつける貴重な機会となっています。

加えて、個別演習では英国式チュートリアルを取り入れた対話型指導を行い、院生一人ひとりが主体的に研究を進めています。その成果として、修士論文やリサーチペーパーの完成に取り組むだけでなく、研究の面白さに目覚め、働きながら博士号取得を目指す院生も少なくありません。博士課程においては、正・副指導教員による複数指導体制を整え、さらに年2回の研究発表会を通じて、研究を支える環境を充実させています。

社会人の中には、「実務に直結するスキルを早く身につけたい」と考え、研究に時間を割く余裕はないと感じる方もいるかもしれません。しかし、本研究科では、研究こそが理論と現実を結びつけ、新たな視点を獲得するための重要な手段であると考えています。はじめは多くの院生が研究テーマの設定に苦勞しますが、教員との対話を通じて問いの立て方や考察の進め方を学び、次第に自らの視点を深めていきます。こうした経験は、日々の実務をより深く理解し、新たな価値を見出す力へとつながっていきます。

現在、ビジネス環境は急速に変化しています。グローバル化の進展やICTの高度化、新興国企業の台頭などにより、企業を取り巻く環境はますます複雑化しています。このような時代においては、理論を学び、それを実践に活かしながら、新しい視点を創出していく力が求められています。

本研究科は、そのような力を育む学びの場です。新たな挑戦に踏み出そうとする皆さまを、教員一同心より歓迎いたします。

# コースのご紹介

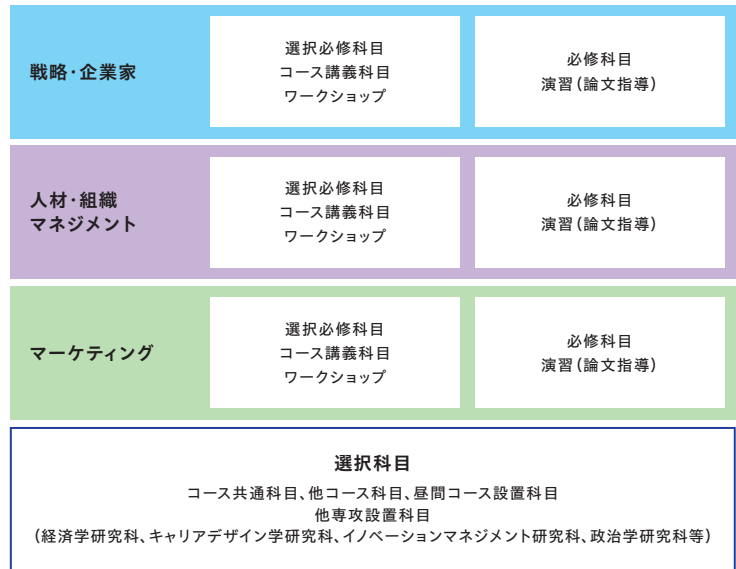
経営学研究科には、昼間と夜間の2つの課程から構成される修士課程と、博士後期課程が設置され、多様なバックグラウンドを持つ在籍者の特性に応じた幅広いカリキュラムが提供されています。

## 夜間修士課程 夜間3コース



### 企業やその他団体等で高度な経営課題に応えられる経営管理職・専門職等の育成

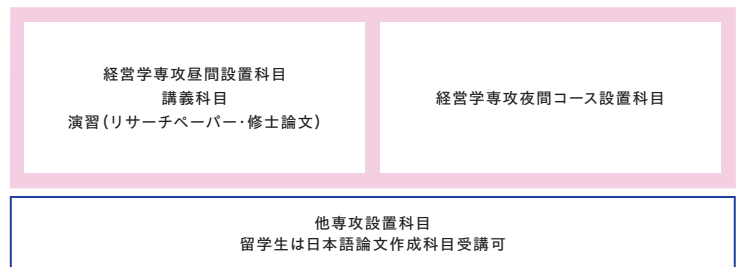
夜間修士課程では平日の夜間と土曜日に授業が実施されています。戦略・企業家、人材・組織マネジメント、マーケティングの3コースにおいて、それぞれを専門領域とする教員によるコース独自の講義科目とワークショップが提供され、2年次以降の演習ではコース専属教員の指導の下で修士論文を作成します。選択科目としては、3コース全ての院生を対象としたコース共通科目や、他コース提供科目の他、昼間修士課程の科目や、他専攻（キャリアデザイン学研究科、イノベーションマネジメント研究科、経済学研究科、政治学研究科等）が開講する科目も受講できます。このように、夜間修士課程では所属コースに応じた専門知識を深めることができるばかりか、個々の院生の必要性や関心に合わせて多様な科目を幅広く学ぶことが可能となっています。



## 昼間修士課程

### 優れた成果を上げられる 研究・教育職、国際職業人等の育成

昼間コースは海外の大学を卒業した学生にも広く門戸を開き、留学生も多く在籍しています。経営学専攻昼間修士課程に設置の講義科目と指導教員の下でリサーチペーパーや修士論文を作成する2年次以降の演習に加え、夜間コース設置科目や他専攻設置科目も修了要件に含めることができます。



## 博士後期課程

### 豊かな学識を備えた 独創性に富む専門研究者の育成

博士後期課程では、指導教員による論文指導（演習）の他、博士コースワークショップが提供されています。指導教員と副指導教員の集団指導体制の下で3段階のステップをクリアしていくことにより博士論文執筆を着実に前に進めていくことが可能となっています。



※修士課程、他専攻設置科目の履修可



稲垣 京輔 教授

## 経営のトップやプロフェッショナルに ふさわしい洞察力を鍛える

企業家養成コースは1992年の開講以来、創業や事業の承継、昇進により経営者・経営幹部になられた修了生を数多く輩出してきました。本コースは2027年度より、戦略・企業家コースへと改称されます。創業や新事業の創造を志す人、企業家の支援に関わる人だけでなく、企業内での変革を担う次世代リーダー、事業の承継、事業戦略、全社戦略の策定など、幅広く経営マネジメントに携わる人を対象としながら、経営学の理論的蓄積に基づく分析力、戦略的構想力、論理的思考力の涵養を目指し、洞察力を鍛えられるようお手伝いをしていきます。

経営マネジメントにおいて直面する状況は常に新しく、将来は常に不確定です。その中で的確な決断を下すためには、表面的・一時的な現象に惑わされてしまうことなく、本質を鋭く見通す洞察力が欠かせません。戦略・企業家コースでは、こうした能力を養うために、多様な学びの機会を設けています。

例えば「ワークショップ」では、第一線で活躍している経営者・企業家をゲストとしてお招きし、企業や事業を起こした経緯・動機、そのときの苦労や問題点、現在直面している経営上の課題や対応策などについて、ご本人にお話いただくと共に、質疑応答や対話を通じて議論を深めていきます。こうした双方向的の授業を通じて、参加者は経営者・企業家の置かれた状況を想像し、追体験しながら、企業経営の本質を考えることとなります。

また当コースでは、企業家活動、経営戦略論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論、企業家史、経営史など、企業家の洞察力の涵養に欠かせない科目が、数多く用意されています。その他に、マーケティング論、消費者行動論、人的資源管理論、経営学基礎、会計学基礎、国際経営論など、他のコースやコース共通の多様な科目を履修することも可能です。

2年次には、担当教員の丁寧な指導を受けながら、修士論文を執筆していきます。一見遠回りに見えても、修士論文を自分自身で執筆する経験を通して、これまでの実務経験や大学院で学んだ知識が、本当に自分

の血となり肉となっていきます。さらには、経営者・企業家として必須の論理力・構想力も飛躍的に高まることになります。

こうした多様な学びを通じて、自らの経験を棚卸・言語化・体系化し、経営者・企業家として企業や事業の全体的なあり方を構想し変革を実現していくための土台となる思考枠組みを培っていきます。

本コースには、ビジネスの現場で強い問題意識を持つ多様な経歴の社会人が集まってきます。そのため、教員を交えて、あるいは学生同士で、多様なトピックについて多様な観点から議論していくことが可能です。こうして育まれていく、修了生も含めた強固なネットワークは、大学院修了後も大切な財産となります。本コースで、企業家として必要な洞察力とネットワークを育みながら、経営トップや経営のプロフェッショナルへの道を目指してみませんか。

### 教員紹介

教員名	研究テーマ
稲垣 京輔 教授	企業家活動と組織変革に関する研究
金 容度 教授	企業システムの歴史の国際比較、企業間関係に関する研究
近能 善範 教授	企業間関係とイノベーション
二階堂 行宣 教授	日本経営史・日本経済史
韓 載香 教授	日本産業史、日本におけるエスニックマイノリティ企業史研究
福島 英史 教授	産業発展と事業変革
木川 大輔 准教授	企業の競争優位性と企業間関係に関する研究 (エコシステム、プラットフォーム、ビジネスモデル)

### 主な開講科目

- ▶ 企業家活動
- ▶ 企業家史
- ▶ 経営史
- ▶ 経営戦略論
- ▶ イノベーション・マネジメント概論
- ▶ 企業間関係論
- ▶ 企業家養成演習
- ▶ ワークショップ (企業家養成)

## Voice MBA修了生・現役生の声

### 新しい挑戦で自分を変革できる2年間

私は現在、会社で新規事業開発を行なっています。世の中にイノベティブな製品・サービスを届けることを目標に、HBSでの学びを活かしながら試行錯誤の毎日を過ごしています。かつては「イノベーションは自分にはあまり関係ない」と思っていました。そんな私がHBSで学び、「イノベーション」に挑戦するようになった経緯を紹介します。私はメーカーで10年余り経理業務に携わったあと、2009年に現在の会社へ転職しました。経営企画部門に配属され、中長期経営戦略やM&A、海外を含むグループ経営、新規事業開発に携わってきました。未経験の仕事にやる気と根性で取り組んできましたが、「経営戦略」や「イノベーション」、「新規事業開発」など体系立てた理論の知識が無く、壁にぶつかることがよくありました。そして、伝統的な日本企業でイノベティブな新規事業を起こすことの難しさを感じてきたことが、HBSの門を叩ききっかけとなりました。HBSの良さは、自分の問題意識から研究テーマを決め、講

林 輝夫 さん (2023年3月修了)  
ナブテスコ株式会社



義で先人の研究理論をしっかりと学ぶ中で考察し、研究成果を修士論文という形で言語化できるところだと思えます。そして、HBSにはそのための先生方の手厚い指導と、切磋琢磨する学生同士のコミュニケーションが充実していると感じています。HBSの特長であるワークショップでは、講師の経営者から生の経験を聞くことで、学んだ理論を自分の仕事に応用するための多くのヒントを得ました。ゼミでは先生のきめ細やかな指導を受けながら、自分の問題意識に正面から取り組んだ証になる修士論文を書き上げることができました。仕事をしながらの取組で大変な事も沢山ありましたが、家族や学生同士の励ましもあり、楽しく充実した2年間を通して少しは自分を変えることができたと思います。「イノベーションを起こしたい」、「何かを変えたい」と思っている方、ぜひHBSで学んで、行動を起こせる自分に変わってみませんか？



中西 善信 教授

## 人材と組織の課題を考え、 実践する人のために

人材・組織マネジメントコースは、法政ビジネススクールが創設された1992年、「人的資源管理コース」としてスタートしました。その後「人材開発コース」、そして現在の「人材・組織マネジメントコース」へと名称は変わりましたが、基本的な教育理念は一貫しています。それは、企業等で現実に生じている人材や組織に関する問題を、学術的理論や実証分析の方法を用いて調査・分析することにより、課題解決に資する知見を得て、実践に生かす能力を身につけることです。

本コースの特徴の1つ目は、人事、労働、組織というかなり広範な分野の研究者を専任教員として多く配置していることです。研究テーマが幅広いだけでなく、バックグラウンドとなる学問分野（経営学、社会学、経済学、心理学など）や実証分析の方法（質的調査、量的調査など）も多様です。したがって、院生は人材と組織を考える際に必要なさまざまな理論的知識、思考方法を学び、それらを実践的な課題解決に生かす応用力を身につけることができます。

本コースの特徴の2つ目は、丁寧な修士論文指導です。論文指導は主に個々の院生を受け持つ指導教員が行いますが、院生はいつでも、指導教員以外の教員に研究上のアドバイスやサポートを求めることができます。ほかにも、毎年春季には研究テーマの構想やプロポーザルの発表会、秋季には中間段階の研究報告会を開催しており、コースの全教員と全院生が参加して一日がかりの報告会を行っています。研究の発表者また報告者は、これらの発表会・報告会での発表を通して、指導教員以外の教員からも多面的なコメントを得ることができます。

皆さんは、これまで他者と協業する中で、人材や組織に関わる様々な課題に直面してきたのではないのでしょうか。私たちは、皆さんがこれらの課題を他者に理解できるよう客観的に整理して伝え、課題が生じる原因を解明し、個々の文脈において適切で効果的な解決策を提示できるように、学術的な観点からお手伝いしたいと思っています。これには、先行研

究の探索や論理的思考の伴う深い考察が求められます。現場での実践とは異なる部分があって最初は戸惑うかもしれませんが、私たちはこれまでの修了生たちの経験から、本コースで習得できる学術的アプローチは、皆さんのビジネス場面においても非常に有意義なものになると確信しています。

### 教員紹介

教員名	研究テーマ
小川 憲彦 教授	組織社会化、組織と個人の適合
奥西 好夫 教授	人事制度の経済分析、日本の賃金停滞
佐野 哲 教授	労働市場、経営社会政策
佐野 嘉秀 教授	人材マネジメント、雇用システム
長岡 健 教授	職場学習、組織エスノグラフィー
中西 善信 教授	組織学習、組織の正統性
西川 真規子 教授	ジェンダーと労働、仕事と生活
戎谷 梓 准教授	国際人的資源管理、グローバル人材

### 主な開講科目

- ▶ 人的資源管理論
- ▶ キャリアマネジメント論
- ▶ 人事制度論
- ▶ 労働市場論
- ▶ 労使コミュニケーション論
- ▶ 経営管理論
- ▶ 経営組織論
- ▶ 組織行動論
- ▶ 経営情報論
- ▶ 国際人事
- ▶ 人材・組織マネジメント演習
- ▶ ワークショップ(人材・組織マネジメント)

## Voice MBA修了生・現役生の声

### わたしが法政ビジネススクールで手に入れたもの

私は製造業のいわゆる人事畑で社会人経験を積んできました。50歳を迎えるにあたり、考えたいことが2つありました。1つが、私自身のこれまでの人事領域での現場経験をアカデミックな観点から体系的に整理できないかということです。もう1つが、私を含むミドル・シニアの社員が躍進するためのヒントを探求することができないかということです。これらを踏まえHBSへの進学を決め修了した訳ですが、私の2つのニーズは期待以上に満たされたように思います。現場経験の体系的な整理という点では、HBSでは人事、労働、組織など人材と組織を考えるうえで必要な理論的知識が学べる授業が質・量で充実していました。それらの授業の特徴では、学術書や文献のインプット、授業での先生や仲間たちとの議論によるアウトプット、それらを繰り返すことで実践的な知へと体系化できたのではないかと思います。ミドル・シニアの社員の躍進に関する探究では、私の場合、まさに私自身と自身の勤務する会社が直面

久次米 章彦 さん(2023年3月修了)  
キリンホールディングス株式会社



する課題を修士論文のテーマ(「役職定年後のシニア社員の職域の実態」)に定め、指導教官とマンツーマン体制でこのテーマに向き合ったといえます。大学院での研究と普段の業務が並行して進んでいき、研究による発見や提言を自社の人事施策に取り入れることもできました。さらに2つのニーズに加え、先生や共に学んだ仲間たちとネットワークができたことも大きな財産です。平日夜間と土曜日に主体的に学びたいとHBSに集う仲間たちとの繋がりは、普段の仕事では得難いものだと思います。修了後、勤務先においてミドル・シニアの躍進を支援する組織の立ち上げを任せられることになりました。HBSで得た先生や仲間たちのネットワークを活用しながら、アカデミックアプローチを現場で実践していくことにワクワクしています。修了生として、HBSでの学びやHBSに集う仲間たちとの出会いの素晴らしさを、一人でも多くの方に味わってほしいと考えています。

# マーケティングコース



岡田 庄生 准教授

## マーケティングを 深く学びたい人のために

マーケティングコースでは、実務での豊かな経験を持ち、研究者としても国内外で業績を積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしています。「マーケティング論」、「流通システム論」、「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービス・マネジメント論」といった専門科目で理論を学習し、「マーケティング・リサーチ論」、「マーケティング・サイエンス論」、「定性的方法論」で調査・分析の方法論を身につけ、そして時流にあったテーマで開催される「ワークショップ」で、多数のゲストスピーカーと参加者同士の活発な討議を通して実践的に学び、マーケティングを体系的に深く理解することができます。

1年次には、こうして学んだ理論と実務での課題を照らし合わせ、自分なりの研究課題を膨らませていきます。このことが、今までにない問題意識を持つ研究やビジネスのアイデアをもたらす可能性を高めます。少々難しそうに思われるかもしれませんが、「この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめると、現実の問題がクリアになりそう」といった直観的なひらめきで充分です。1年次の終わりには、研究計画の報告を行い、研究テーマに近い専門分野のマーケティングコースの教員が、ゼミ指導教員となります。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。皆さん自身の努力も必要ですが、講義での数多くの仲間との議論や学習によって、楽しみながら理論や方法論を身につけていくことができます。さらに先輩や卒業生もアドバイスをしてくれます。同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけでなく、かけがえのないネットワーク構築にもつながります。

2年次には、演習(ゼミ)において、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告

会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、専門的なアドバイスを受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コース全体が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。さらに、卒業後に修士論文を磨いて、マーケティング系の学会発表に臨んだり、博士課程に進んで研究者を目指したりすることも珍しくありません。

皆さんの研究課題は、我々教員にとっても、実務とアカデミックの新たな接点となりえます。皆さんと一緒に、マーケティングの新しい研究ができることを期待しています。

### 教員紹介

教員名	研究テーマ
木村 純子 教授	農産物マーケティング、地域活性化
田路 則子 教授	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略
新倉 貴士 教授	消費者行動、ブランド・マネジメント
西川 英彦 教授	デジタルマーケティング、ユーザーイノベーション
戸田 裕美子 教授	現代日本流通の歴史的研究
岡田 庄生 准教授	ブランディング、マーケティング・コミュニケーション
長谷川 翔平 准教授	購買履歴データの統計分析、マーケティング・サイエンス

### 主な開講科目

- ▶ マーケティング論
- ▶ 流通システム論
- ▶ 消費者行動論
- ▶ 国際マーケティング論
- ▶ マーケティング・リサーチ論
- ▶ 定性的方法論
- ▶ 製品開発論
- ▶ マーケティング演習
- ▶ マーケティング・サイエンス論
- ▶ ワorkshop(マーケティング)
- ▶ サービス・マネジメント論

## Voice MBA修了生・現役生の声

### 学びの再構築の2年間

私がHBSの夜間マーケティングコースに入学したのは、10年以上のホテルでのマーケティング実務経験を学術的に問い直したいという思いが原点でした。ホテル業界では経験や感覚が優先される傾向がありますが、だからこそ実務知を理論の枠組みで再構築することに意義があると考えました。HBSでの学びは、学術と実践の融合に特徴があります。実務経験もあり、研究者としての実績もある先生方からも直接の指導に加え、学術論文や専門書からの理論的インプット、実務家によるゲスト講義、そして学生同士の議論を通じて、知識が学術的かつ実践的な体系として構築されていきました。マーケティング科目では重要な研究成果に触れ、統計科目では定量的分析手法や統計ソフトの使い方を体系的に学び、実証研究の基礎を固めることができました。HBSの醍醐味は、2年次に取り組み修士論文執筆です。実務では当然とされている戦略、施策の効果を学術的に検証する貴重な機会を得ました。指導教員の丁寧な助言のもと、研究設計から分析手法、論文構成に至るまで、研

渡辺 泰輔 さん (2025年修士課程修了・2025年博士課程入学)  
バンヤングループ



究者としての思考方法を鍛えることができました。理論的な貢献と実務的な示唆を備えた論文を残せたことは、私のキャリアにおいてとても大きな転機となりました。共に学んだ仲間との交流も、この2年間の大きな財産です。同期、先輩、後輩たちは、世代も業界も異なりながらも探究心の高い同志で、実務では得られない刺激に満ちていました。修士課程での経験を通じて、理論と実務の溝を埋める学術的探究の意義を見出し、博士後期課程への進学を決意しました。実務経験を持つ研究者だからこそ貢献できる領域があるという確信のもと、業界の現状と学術理論の間にある距離を、少しでも縮めていくことが、私の研究者としての使命です。HBSは理論と実践を繋ぐ新たな学術的視点を獲得する場です。学びを志す、学び直しを考える皆さんにとって、研究を通じた知の再構築と実務への還元を実現するかけがえのない時間となることを願っています。



入戸野 健 教授

## これからの時代を担う企業経営と 経営学のプロフェッショナルへ

経営学研究科は、現実の企業経営を題材としながら、組織との中で繰り広げられる人間の営みを研究し、その成果を学ぶことを目的として設立された研究科です。組織や人間の営みは多様であり、単に現象を追うだけでは、現実の世界で日々生じる複雑な現象の洪水に溺れてしまいます。しかし、表面上は異なって見える現象でも、その根源を探求していくと、共通した原理にたどり着くことがしばしばあります。混沌とした現実をより深く理解するには、原理(理論)を知っていることが重要です。理論を学び、何が重要であるかを見極めることによって、現実の理解を深めていくことが可能になります。

本コースが目指しているのは、このような思考のできる人材の育成であり、専門的な経営学の教育を通じて数多くの研究者や高度職業人を養成してきました。そして、これからも教育研究機関・学会等で通用する高度な研究・教育成果を上げることができる研究者・教育者の育成、企業・その他の団体等において高度な経営課題に応えられる経営管理

職、専門職の育成を行っていきます。

本コースは、人材組織、経営史、会計、AI・データサイエンス、マーケティング、国際経営、ファイナンス、企業と経済、戦略・企業家という9つの専門領域について研究できます。このため、広く経営学を学んでいく上で必須となる基本的な内容や共通の方法論を学べる科目群を幅広く用意し、経営学の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べるようになっています。経営学研究科の夜間コースの授業や他専攻の授業も受講することができます。数量的な分析に関する科目も開講しており、総合的に、すなわち定量的・定性的に企業経営を捉える視点を養うことが可能です。講義やディスカッションを通して高度な知識・理論を習得し、さらには、細やかな個別指導のもとで質の高い修士論文あるいはサーチペーパーを作成することを目指します。

### 教員紹介※

※夜間コース共通科目担当含む

教員名*	研究テーマ
安藤 直紀 教授	企業の国際経営戦略、制度理論の多国籍企業分析への応用
大木 良子 教授	競争政策の経済理論分析
川島 健司 教授	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の会計基準分析、時価主義会計の学説研究
金 塔晋 教授	企業の財務行動、資産価格の実証分析
児玉 靖司 教授	人工知能、大規模授業配信のビジネスモデル
近藤 大輔 教授	サービス業の原価企画、経営者育成、アメーバ経営
坂上 学 教授	XBRLと財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究、機械学習を応用した会計不正の発見
芝田 隆志 教授	コーポレートファイナンス
高橋 慎 教授	金融時系列データの統計分析
高橋 美穂子 教授	会計数値に基づく企業価値評価
高橋 理香 教授	貿易政策に関する理論および実証研究
筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算

教員名*	研究テーマ
入戸野 健 教授	ネットワークと知識に関する技法、確率的シミュレーションモデル
平田 英明 教授	日本の景気動向、日本の金融システム、期待形成と経済政策
福田 淳児 教授	MCSの設計と組織学習、スタートアップ企業におけるMCSの発展
藤井 誠 教授	税務会計(法人税法)における所得計算構造論、国際課税に関する研究
洞口 治夫 教授	日本企業の海外直接投資
宮澤 信二郎 教授	企業の競争戦略と企業金融に関するミクロ経済分析
山崎 輝 教授	金融テクノロジー、資産価格理論
李 瑞雪 教授	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、ロジスティクス・クラスター
左三川 郁子 教授	金融論、金融政策
北田 皓剛 准教授	サステナブルマネジメント、ESG情報開示、サーキュラーエコノミー
羅 鵬飛 准教授	国際金融論
牧草 夏実 専任講師	統計的機械学習のモデル選択と最適化に関する研究

### 主な開講科目

▶ 経営学概論	▶ マーケティング特論	▶ ミクロ経済論	▶ 国際経済学	▶ 経営情報特論
▶ 経営管理論	▶ 会計学入門	▶ マクロ経済論	▶ 国際金融論特論	▶ 国際人事特論
▶ 経営管理特論	▶ 財務会計論	▶ 組織経済学	▶ 産業組織論	▶ 物流管理とサプライチェーンマネジメント特論
▶ 経営組織特論	▶ 財務会計特論	▶ 金融論	▶ 日本経済特論	▶ 経営学特殊研究
▶ 人的資源管理特論	▶ 経営分析論	▶ ファイナンス入門	▶ 統計学	▶ 経営学基礎論
▶ 経営戦略特論	▶ 財務諸表分析	▶ ポートフォリオ理論入門	▶ リサーチ・メソッド	▶ 経営学演習
▶ 国際経営特論	▶ 管理会計特論	▶ デリバティブ入門	▶ コーポレートファイナンス入門	

### 主な夜間コース共通科目

▶ 管理会計基礎	▶ 経済学基礎	▶ 国際経営論	▶ 物流管理とサプライチェーンマネジメント論
▶ 財務会計基礎	▶ 日本経済基礎	▶ 国際経営論特講	
▶ 経営分析	▶ 情報学特論	▶ 外国語経営学特殊講義	
▶ ファイナンス基礎	▶ e-ビジネス論	▶ 地域経済研究	
▶ 経営学基礎	▶ 統計データ解析	▶ 経営特殊研究	

## MBAセミナー & 個別進学相談会

- ▶ 2026年7月11日(土) [オンライン開催]
- ▶ 2026年10月24日(土) [オンライン開催]
- ▶ 2026年12月5日(土) [オンライン開催・進学相談会のみ]

MBAセミナーの詳細は、  
法政ビジネススクールウェブサイトまで。  
<http://hbs.ws.hosei.ac.jp>



## 入試日程

### 修士課程夜間

- 〈秋季〉
- ▶ 出願期間 2026年10月14日(水)~10月19日(月)
  - ▶ 口述試験 2026年11月22日(日)
- 〈春季〉
- ▶ 出願期間 2027年1月6日(水)~1月11日(月)
  - ▶ 口述試験 2027年2月20日(土)

### 修士課程昼間

- ▶ 出願期間 2026年10月14日(水)~10月19日(月)
- ▶ 第一次試験(筆記) 2026年11月15日(日)
- ▶ 第二次試験(口述) 2026年11月22日(日)

※学内入試(法政大学4年生対象。通信教育部、英語学位プログラムを含む)は筆記試験はなく成績要件と口述試験による入試を実施。

### 博士後期課程

- ▶ 出願期間 2027年1月6日(水)~1月11日(月)
- ▶ 第一次試験(筆記) 2027年2月13日(土)
- ▶ 第二次試験(口述) 2027年2月13日(土)

## 修士課程学費 (年額、単位:円)

学年	入学金	授業料	実験 実習費	教育 充実費	諸会費*	年間合計
1	200,000	570,000	-	80,000	3,000	853,000
2	-	570,000	-	80,000	3,000	653,000

※本学出身者は、入学金が免除されます。  
※諸会費は毎年度の見直しにより、変更となる可能性があります。  
※この学費は、2026年度のものであります。

## 博士課程学費 (年額、単位:円)

学年	入学金	授業料	実験 実習費	教育 充実費	諸会費*	年間合計
1	200,000	400,000	-	60,000	3,000	663,000
2	-	400,000	-	60,000	3,000	463,000
3	-	400,000	-	60,000	3,000	463,000

※本学出身者は、入学金が免除されます。  
※諸会費は毎年度の見直しにより、変更となる可能性があります。  
※この学費は、2026年度のものであります。

## 教育訓練給付制度(一般教育訓練給付)

経営学専攻(夜間)は「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の指定を受けています。修了後にハローワークに申請することで、雇用保険の被保険期間に応じて教育訓練給付金(上限10万円)が支給されます。

## 奨学金、研究助成等について

奨学金・研究助成等詳細は、  
大学院ウェブサイトへ

<https://www.hosei.ac.jp/gs/gakuhi/>



法政ビジネススクールについては、  
以下ウェブサイトでも入試情報の他  
様々な情報を発信しております。

<http://hbs.ws.hosei.ac.jp>



**法政ビジネススクールは  
利便性の良い市ヶ谷キャンパスで  
授業が実施されています。**

■ 法政大学大学院へのアクセス

【JR線】  
総武線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分  
【地下鉄線】  
都営新宿線:市ヶ谷駅下車徒歩10分  
東京メトロ有楽町線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分  
東京メトロ東西線:飯田橋駅下車徒歩10分  
東京メトロ南北線:市ヶ谷駅または飯田橋駅下車徒歩10分  
都営大江戸線:飯田橋駅下車徒歩10分

法政ビジネススクールについてのお問い合わせは

**法政大学大学院事務部** (法政大学大学院棟1階) 〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-15-2

☎ 03-5228-0551 ✉ [i.hgs@ml.hosei.ac.jp](mailto:i.hgs@ml.hosei.ac.jp)

🌐 法政大学大学院 <https://www.hosei.ac.jp/gs/> 法政ビジネススクール <http://hbs.ws.hosei.ac.jp>